

事業報告書

(令和3年度)

学校法人 智香寺学園

目 次

1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 設置している学校・学部・学科等	1
(3) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(4) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況	
③ 教員	
④ 職員	

2. 事業の概要

(1) 令和3年度事業の概要・実施状況	3
---------------------	---

大学部門

- ① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う大学の対応措置について
- ② 埼玉工業大学における新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施について
- ③ 自動運転バスの活動報告について
- ④ 埼玉工業大学機械工学科総合実験実習棟完成
- ⑤ 令和3年度 科学研究費補助金の申請拡大
- ⑥ 産業技術展示会への研究展示報告
- ⑦ 地域交流計画の実施状況
- ⑧ 高大連携計画
- ⑨ 国際交流計画
- ⑩ 若手研究者の育成
- ⑪ 主な施設設備計画の実施状況
- ⑫ キャリア支援センター・就職課 事業状況

高校部門	16
------	----

- 生徒募集結果 ■ 学校行事
- 生徒会活動 ■ 卒業生の進路について

中長期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	22
-----------------------	----

3. 財務の状況

(1) 決算の概況	23
① 貸借対照表関係 ② 資金収支計算関係 ③ 事業活動収支計算書関係	
(2) その他	26
① 有価証券の状況 ② 借入金の状況 ③ 学校債の状況 ④ 寄付金の状況	
⑤ 補助金の状況 ⑥ 収益事業の状況 ⑦ 関連当事者等との取引の状況	
⑧ 学校法人間財務取引	
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	26

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

- ① 科学の真理を窮め、それを世のために役立てるよう決意することによって、若き日に**使命感**を養え。
- ② 深く科学を学び、豊かな技術を身につけることによって、若き日に正しい**人生観**を養え。
- ③ 学生、教職員及び父兄が一体となり、学園の理想発展をめざすことによって、若き日に**連帯感**を養え。

学校法人智香寺学園埼玉工業大学は、仏教精神を基盤として、広く学術教育を行うことを建学の理念としています。単なる実学教育にとどまらず学生一人ひとりの「こころ」の涵養に力を注いでいます。

(2) 設置している学校・学部・学科等

(令和3年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	機械工学専攻	平成10年4月	6		12
	情報システム専攻	平成19年4月	7		14
	生命環境化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程)				
	機械工学専攻	平成12年4月	2		6
	情報システム専攻	平成22年4月	2		6
	生命環境化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	120		475
生命環境化学科	平成19年4月	90		380	
情報システム学科	平成19年4月	150		585	
工学部小計		360		1,440	
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	90		360	
心理学科	平成14年4月	50		200	
人間社会学部小計		140		560	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	昭和32年4月	400		1,200	
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(3) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(令和3年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	機械工学専攻	6	15		26
	情報システム専攻	7	18		30
	生命環境化学専攻	7	6		9
	(博士後期課程)				
	機械工学専攻	2	2		4
	情報システム専攻	2	5		10
	生命環境化学専攻	2	1		5
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	10	0		3
	心理学専攻	15	3		8
	大学院小計	51	50		95
	工学部				
	機械工学科	120	140	1	535
生命環境化学科	90	75		332	
情報システム学科	150	183		867	
工学部小計	360	398	1	1,734	
人間社会学部					
情報社会学科	90	100		412	
心理学科	50	48		228	
人間社会学部小計	140	148		640	
大学合計	551	597		2,469	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	400	422		1,137	
高校合計	400	422		1,137	
法人合計	951	1,019		3,606	

(3) 役員・教職員概要

① 役員

(令和3年5月1日現在)

理事・監事の 区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)	ハラスメント等人権担当	浅野義光	平成27年12月
理事 (非常勤)	ハラスメント等人権担当	宇都宮孝和	平成27年12月
理事 (常勤)	理事長	松川聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	加藤慎也	平成28年4月
理事 (非常勤)	教育研究担当	神居文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪行雄	平成19年4月
理事 (常勤)	教育・学生担当	小西克享	令和2年4月
理事 (非常勤)	コンプライアンス担当	緒方延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)	財務担当	宇高良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		今岡達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷仁海	平成19年7月
監事 (非常勤)		高丹秀篤	平成28年7月

② 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

本学は、役員及び評議員等を被保険者として、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第118条の3の規定による役員等賠償責任保険に加入しています。保険料は本学が全額負担し、役員等がその職務の執行に起因して保険期間中に損害賠償請求をされた場合の損害賠償金および争訟費用等は本保険により填補されます。

なお、本保険契約は役員等の職務執行の適正性確保のため、職務義務違反以外の要件に起因する損害等については、填補の対象外とされています。

③ 教員

()内は兼担を示す

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(60)	4	4(60)
先端科学研究所	2(18)	0	2(18)
工学部	49	94	143
人間社会学部	20	56	76
大学計	71	154	225
正智深谷高校	57	36	93

④ 職員

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	5	0	5
大学部門	59	18	77
高校部門	10	1	11
合 計	74	19	93

2. 事業の概要

(1) 令和3年度事業の概要・実施状況

大学部門

① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う大学の対応措置について

令和3年度は、前年度に蓄積・共有した経験と知見を踏まえ、学生にできるだけ多くの登校機会を提供できるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、原則として実験、実習、演習、卒業研究については、対面型で授業を実施し、その他の科目についてはハイフレックス型(※)の授業を実施するなど、柔軟な授業設計に積極的に取り組んだ。大学全体の感染対策としては、昨年度同様に教室、食堂など学生等の利用施設に飛沫防止用のアクリル板の設置及び座席数を減らすなどソーシャルディスタンスを考えた空間づくりを継続し、また、対面授業による学生の入構に際しては正門での入構記録(学生証)、検温所での体温確認、構内各所に消毒液の設置等の対策を講じてウイルスの感染拡大防止につとめた。

(※) ハイフレックス授業

対面授業とオンライン授業を同時に行う。教室で行われる対面授業の内容がリアルタイムにオンラインでも配信されます。学生は対面で受講するかオンラインで受講するかが選択できます。

② 埼玉工業大学における新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施について

新型コロナウイルスのワクチンを職場などで打つ「職域接種」を、埼玉工業大学でも実施した。実施するにあたっては、事前に学内で集団予防接種を実施した場合、接種を希望するか、しないかを学生に調査し、強制ではなく希望者を対象に実施した。

事業概要

【実施形態】

- ・埼玉工業大学の学生及び教職員のほか、同法人の正智深谷高等学校教職員、学生の家族や近隣住民、取引企業、近隣企業の社員などに対して接種を実施した。
- ・接種は、医療法人壺春会金子医院に依頼し、埼玉工業大学キャンパス内の職域接種会場(大食堂及び30号館ロビー)に出張してもらった形で実施した。

【接種日程】

- (1) 第1回目：8/22(日)・第2回目：9/19(日) 時間：両日とも10:00～17:00
- (2) 第1回目：8/23(月)・第2回目：9/20(月) 時間：両日とも10:00～17:00
- (3) 第1回目：8/29(日)・第2回目：9/26(日) 時間：両日とも10:00～17:00

※必ず両日接種すること

【接種人数】

- 第1回目：1,200人
- 第2回目：1,199人



③ 自動運転バスの活動報告について

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症の感染防止策を十分に講じた上で、自治体や企業との連携、共同研究などを行った。

・『渋沢栄一 論語の里 循環バス』合計約 1 万キロの自動運転走行を達成

深谷観光バス株式会社（本社：埼玉県深谷市）と埼玉工業大学は、NHK 大河ドラマ「青天を衝け」の放映に合わせて 2021 年 2 月 16 日（火）～2022 年 1 月 10 日（月）まで運行した『渋沢栄一 論語の里 循環バス』が、98 日間で合計約 1 万 km（10554.5km）の自動運転走行を実施して、全ての運行を終了しました。



深谷観光バス株式会社と埼玉工業大学は、自動運転バスを論語の里を巡る観光客の足として活用しながら、地域の交通事情に対応した課題に対して、自動運転バスの開発を継続しながら、営業運行による自動運転を展開しました。

・埼玉工業大学と群馬ボートが自動運航技術の開発で協力

埼玉工業大学は、水陸両用バスの自動運転・運航の技術開発を強化するため、小型船舶での自動操舵の実験協力において、群馬ボートライセンススクール（「群馬ボート」）を運営する有限会社籠島装業（本社：群馬県高崎市）と業務委託契約を締結しました。この契約により、小型船舶の自動操舵技術の開発に関する協力体制を構築しました。



・世界初の水陸両用船の無人運転・運航技術の開発に成功

埼玉工業大学は、日本財団（東京都港区）が2022年3月14日に群馬県の八ッ場あがつま湖にて実施した水陸両用船「八ッ場にやがてん号」の無人運航の実証実験に参加しました。同実証実験は日本財団の推進する無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」の一環で、水陸両用船による無人運航の実証は世界初となります。



水陸両用船の自動運航による入水シーン（日本財団提供）

本学は、ITbookテクノロジー株式会社（本社：東京都港区）との共同研究により、自動運転・運航による水陸両用バスの開発と、ソフトウェアおよびシステムの設計・開発をしてきました。今回その成果として、長野原町所有の水陸両用船「八ッ場にやがてん号」（全長11.83m、総トン数11トン）が陸上から入水し、水上を航行して障害物を回避し、上陸する一連の自動運航を実現しました。

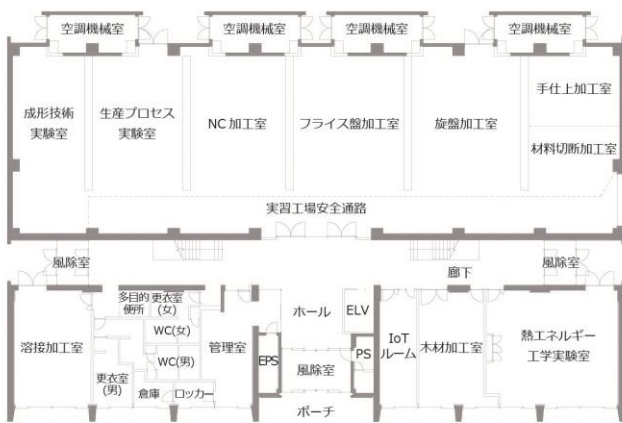
上記の活動の他、自治体との連携事業として「栃木県ABCプロジェクト 自動運転バスに乗ろう@茂木町」や、千葉県の幕張新都心で開催された「千葉市 幕張新都心自動運転実証事業」に自動運転バスの車両提供と技術支援で協力しました。

④ 埼玉工業大学機械工学科総合実験実習棟完成

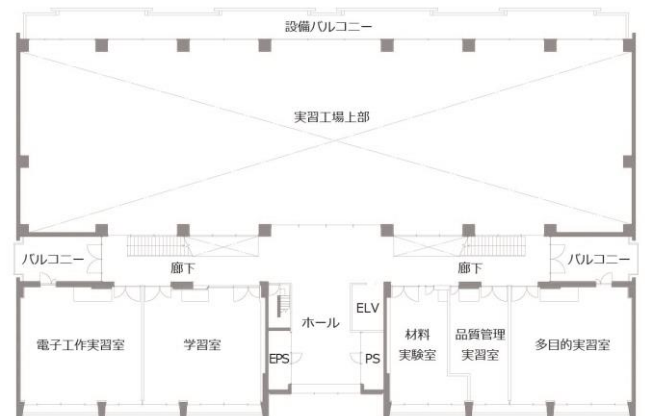
2021年2月より建設工事が始まった埼玉工業大学機械工学科総合実験実習棟が、2022年3月に完成した。DX時代のスマートファクトリーへ対応するエンジニアの育成に向けた最新の教育・研究施設として2022年度より稼働がスタートしました。

総合実験実習棟（34号館）は、延床面積約2,000㎡の2階建てで、これまで学内に点在していた実習機器や設備を集約し、機械工学関連の実験・実習・研究が効果的に展開できる環境を整備しました。この棟は、NCマシンや各種工作機械、AI・IoTなどの機能を搭載した最新の生産設備のあるファクトリーゾーンと、周辺技術の各種実験・実習を行える総合的なラボゾーンからなり、エントランスを中心に建物内に木材を使用し、自然と調和した温もりある、ものづくりの場となっています。

ファクトリーゾーンは、幅48mの無柱大空間による広々としたスペースの吹き抜け構造で、壁のない一体化した共有空間に6つのエリアで構成されています。工作機械の実習のための4つのエリアと、IoT設備を備えるエリア、学生の発想力を具現化するためのファブラボスペースとユニバーサルデザインやバリアフリーを検証するエリアが1つの空間に存在し、専門領域を超えたコラボレーションが生まれやすい環境としています。また、2階ホールから実習工場全体が眺められるため、ものづくりの流れを俯瞰的に捉えることができます。大学の実習設備としては例の少ない、2.8tの天井クレーンも設置しています。以上のように様々な角度から未来志向の総合的なものづくりの場として、棟全体で学内外のものづくりの「発信基地」を目指します。



■1階平面図



■2階平面図

⑤ 令和3年度 科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※令和3年度 科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	令和3年度 直接経費	令和3年度 間接経費
基盤研究（C）	新規	機械工学科	趙 希禄	1,600,000	480,000
基盤研究（C）	新規	生命環境化学科	木下 基	900,000	270,000
基盤研究（C）	新規	情報システム学科	大山 航	1,300,000	390,000
基盤研究（C）	新規	情報システム学科	山崎隆治	1,100,000	330,000
研究成果研究促進費	新規	情報社会学科	平田文子	1,000,000	0
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田正哉	500,000	150,000
挑戦的研究（萌芽）	継続	先端科学研究所	丹羽 修	1,400,000	420,000
挑戦的研究（萌芽）	継続	先端科学研究所	内田正哉	500,000	150,000
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	本郷照久	1,400,000	420,000
基盤研究（C）	継続	機械工学科	長谷亜蘭	800,000	240,000
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	有谷博文	600,000	180,000
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	望月義彦	400,000	120,000
基盤研究（C）	移管	機械工学科	長井 力	2,750,002	0
計			13 件	14,250,002 円	3,150,000 円

⑥ 産業技術展示会への研究展示報告（令和3年度実績）

展示会名	実施月
・さいしんビジネスフェア 2021 オンライン出展	5 月
・東京大学生産技術研究所 ITS センターITS セミナー	9 月
・ITS TV 出演	10 月
・諏訪圏工業メッセ 2021 オンライン出展	10 月
・2021 さかきモノづくり展 オンライン出展	10 月
・いたばし産業見本市 オンライン出展	11 月
・彩の国ビジネスアリーナ 2022 オンライン出展	1 月
・埼玉県産業振興公社シーズマッチング会 オンライン出展（本学主催）	3 月
・埼玉県共催そごう大宮店開店 35 周年特別企画 本郷研究室 研究展示	3 月

⑦ 地域交流計画の実施状況

大学の教育研究の成果を地元や社会へ還元することを目的とし実施。

令和 2 年度にコロナにより開催中止となった各種イベントについて、令和 3 年度はオンラインを活用し開催した。令和 4 年度は対面・オンラインを組み合わせ合わせたハイフレックス形式での開催を計画中。

・市民のための公開講座（オンライン開催）

令和 3 年度（実績）

6月5日	おもしろ機械工学講座（長谷准教授）	受講者数：27名
6月5日	異文化理解講座（平田講師）	受講者数：19名
6月12日	人工知能入門講座（大山教授）	受講者数：58名
6月19日	「親子で参加」キッズ向け体験学習講座（松田教授）	受講者数：43名
6月26日	材料化学講座（田中睦教授）	受講者数：33名

・心理学セミナー（オンライン開催）

令和 3 年度（実績）

6月5日	自我体験から早期記憶へ（三浦教授）	受講者数：29名
7月3日	色から見えるいろいろな世界（大塚教授）	受講者数：29名
9月4日	フランクルの夜と霧（友田教授）	受講者数：27名
10月2日	リラクゼーション技法再訪（巖岩教授）	受講者数：25名

・先端科学研究所協力会講演会（オンライン開催）

令和 3 年度（実績）

6月7日	第1回協力会講演会 テーマ：「経済活動における AI 技術の活用と本学の AI 人材育成の取り組み」 講師：井上准教授（情報システム学科）	受講者数：57名
9月7日	第2回協力会講演会 テーマ：「失敗事例から学ぶ地域活性化と販売手法」 講師：本吉准教授（情報社会学科）	受講者数：55名
12月10日	第3回協力会講演会 テーマ：「DX 時代を生き抜くための IT 人材スキル」 講師：村山教授（情報社会学科）	受講者数：71名

・企業見学会

コロナの影響により開催を見送り

・「科学と仏教思想」研究センター研究会（オンライン開催）

令和3年度（実績）

- 5月28日 第1回研究会『『大日経』を読む——空海の思想の根本となった理論を読み解く』
- 7月30日 第2回研究会「法の自性とは何か：『中観五蘊論』の読解を通じて考える」
- 9月17日 第3回研究会「景教 —前近代アジア・キリスト教思想の特徴—」
- 11月26日 第4回研究会「デュルケームの著作に見られるユダヤ教思想」
- 2月25日 第5回研究会「中世ユダヤのアリストテレス受容」

・「科学と仏教思想」研究センター公開セミナー

令和3年度（実績）

コロナの影響により開催中止

・AI研究センター講演会（オンライン開催）

令和3年度（実績）

6月24日 第1回講演会

テーマ：「Trustworthy Machine Learning（高信頼性の機械学習）」

講師：理化学研究所 革新知能統合研究センター(AIP)

チームリーダー 趙啓斌

受講者数：53名

7月8日 第2回講演会

テーマ：「癲癇の自動診断における機械学習法に関する研究」

講師：東京農工大学大学院工学府 特任助教 趙旭陽

受講者数：53名

・第18回 SAIKO フェア（オンライン開催）

令和3年度（実績）

研究室紹介（12研究室をYouTubeにて紹介）

視聴期間：10月7日～10月10日

機械力学研究室 皆川准教授 / 燃焼推進工学研究室 福地准教授

機能性流体工学研究室 岡田助教 / 植物ゲノム工学研究室 秋田准教授

医用画像解析学研究室 山崎教授 / 認知ロボティクス研究室 橋本教授

サイバーセキュリティ研究室 森川講師 / 経営企画研究室 本吉准教授

情報コミュニケーション研究室 森沢教授 / 経営情報研究室 村山教授

音楽・音響メディア研究室 中川教授 / 臨床心理学研究室 村中講師

・子ども大学ふかやの開催（深谷市教育委員会等との協働事業）

（子ども大学ふかや学長：内山俊一 学長／実行委員長：教育研究支援課 笠原貴弘）
令和3年度（実績）

深谷市内の小学校4年生～6年生を対象とし、受講者（定員30名）の募集を開始するもコロナ感染状況を鑑み開催中止とした。オンライン開催への切替えも検討したが、受講者の通信環境および設備状況も異なるため開催を断念した。

※子ども大学ふかやへ申し込みをした生徒を対象とし、代替事業として2月に「まなびクラブ・リクウェイ」を計画するも、コロナ感染者の急増により開催を中止とした。

・深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。

- *ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣
- *深谷市社会教育委員会へ委員の派遣
- *メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続
- *市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
- *日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催

・長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携を推進する。

- *埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ理科実験」
- *「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
- *「さかきふれあい大学」埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」
- *坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
- *坂城高校大学見学会
- *坂城町との連携協定に基づく連携会議
- *坂城高校を発展させる会

⑧ 高大連携計画

高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

- ・正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。

協定校：令和4年4月現在 合計 38校

[内訳] 高校 36校・専門学校 1校・日本語学校 1校

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 智香寺学園正智深谷高等学校 | 20. 群馬県立太田工業高等学校 |
| 2. 埼玉県立久喜工業高等学校 | 21. 埼玉県立皆野高等学校 |
| 3. 埼玉県立深谷商業高等学校 | 22. 群馬県立吉井高等学校 |
| 4. 埼玉県立熊谷工業高等学校 | 23. 埼玉県立川越工業高等学校 |
| 5. 埼玉県立児玉白楊高等学校 | 24. 埼玉県立大宮工業高等学校 |
| 6. 埼玉県立寄居城北高等学校 | 25. 平方学園明和県央高等学校 |
| 7. 埼玉県立深谷高等学校 | 26. 埼玉県立川口工業高等学校 |
| 8. 埼玉県立深谷第一高等学校 | 27. 埼玉県立浦和工業高等学校 |
| 9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校 | 28. 埼玉国際学園（日本語学校） |
| 10. 群馬県立前橋工業高等学校 | 29. 埼玉県立羽生第一高等学校 |
| 11. 長野県坂城高等学校 | 30. 大妻学園大妻嵐山高等学校 |
| 12. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校 | 31. 埼玉県立滑川総合高等学校 |
| 13. 埼玉県立秩父農工科学高等学校 | 32. 埼玉県立狭山工業高等学校 |
| 14. 埼玉県立妻沼高等学校 | 33. 栃木県立宇都宮工業高等学校 |
| 15. 群馬県立高崎工業高等学校 | 34. 埼玉県立新座総合技術高等学校 |
| 16. 群馬県立藤岡工業高等学校 | 35. 桐生市立商業高等学校 |
| 17. 群馬県立藤岡中央高等学校 | 36. 埼玉県立熊谷西高等学校 |
| 18. 日々輝学園高等学校 | 37. クラーク記念国際高等学校 |
| 19. 埼玉県立進修館高等学校 | 38. 長野県上田東高等学校 |

令和3年度（実績）

【高大連携】

- ・協定校大学見学会（体験授業等）実施（8校）
[内訳] 対面 6校・オンライン 2校
- ・工業高校学習成果研究発表会指導講評依頼（2校）
- ・インターンシップ事業（協定校からの生徒受入れ）（1校）

【教育連携】

- ・探究活動中間発表会助言指導依頼（1校）
- ・AI教育（AIシステム構築に関する学習）に関する教育連携（1校）

※その他連携校からの依頼（連携授業・インターンシップ等）により計画するも、コロナの影響により開催中止。

⑨ 国際交流計画

- ・日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」主催：JST

令和3年度（実績）

コロナの影響により申請を見送り

- ・第1回ダナン大学・埼玉工業大学国際シンポジウム 主催：先端研国際交流研究センター

令和3年度（実績）

コロナ禍における新たな国際交流研究活動を実施すべく、海外協定校であるベトナム ダナン大学と IT、AI、環境分野をテーマとしたオンラインシンポジウムを開催した。

開催日時：2022年3月4日

（日本時間 11：00～13：30、ベトナム時間 9：00～11：30）

シンポジウム タイムテーブル

ベトナム	日本	Contents
9:00	11:00	開会，挨拶（丹羽先端研所長（経緯等の説明））
9:05	11:05	各大学の紹介（ダナン大学，埼玉工業大学）
9:15	11:15	研究紹介 1（埼玉工業大学，機械工学科，皆川佳祐） 「Recent topics of seismic engineering and vibration control」
9:35	11:35	研究紹介 2（ダナン大学，NGUYEN, Dinh Tuan; Dr.） 「Advanced Sensor and energy conversion materials: A Combined Experimental and Theoretical Study」
9:55	11:55	研究紹介 3（埼玉工業大学，生命環境化学科，本郷照久） 「Environmental purification technology using rice husk ash」
10:15	12:15	休憩
10:25	12:25	研究紹介 4（ダナン大学，LE, Phuoc Cuong; Associate Professor, Dr.） 「Environmental engineering and waste utilization technologies at industrial sites」
10:45	12:45	研究紹介 5（埼玉工業大学，情報システム学科，曹建庭） 「Research topics and achievements in our laboratory」
11:05	13:05	研究紹介 6（ダナン大学，HOANG, Phuong Tung; Dr.） 「Application of bio-carbonation to improve properties of construction binders」
11:25	13:25	挨拶（Dr. Hoang Hai ダナン大学日本センター長（総括））
11:30	13:30	閉会

- ⑩ 若手研究者の育成
 令和3年度（実績）
- ・第19回若手研究フォーラム（主催：先端科学研究所 共催：埼玉工業大学大学院）
 開催日：令和3年8月11日
 開催形式：オンライン
 基調講演：本間 格（東北大学多次元物質科学研究所）
 「脱炭素ビジネスと産業競争力に重要な蓄電池技術の展望」
 - 特別講演：五味 伸之（埼玉工業大学 工学部 機械工学科）
 「歩行困難者のためのモビリティロボットの研究」
 - 藤田 和広（埼玉工業大学 工学部 情報システム学科）
 「エレクトロニクスにおける電磁場解析技術の応用」
 - 村中 昌紀（埼玉工業大学 人間社会学部 心理学科）
 「『新型うつ』とは何だったのか？ー心理学から挑む『新型うつ』現象ー」
 - 松田 智裕（埼玉工業大学 基礎教育センター）
 「STEM教育研究プロジェクトの報告」
 - 丹羽 修（埼玉工業大学 先端科学研究所）
 「金属ナノ粒子修飾カーボン材料の創成と電気化学への応用」
 - 長井 力（埼玉工業大学 工学部 機械工学科）
 「使用者と協調動作する歩行補助パワーアシスト装置の研究開発」
- 一般講演（院生発表）：口頭発表42件，ポスター発表24件 合計66件
 参加者数：来場者99名，オンライン発表1名，オンライン聴講登録者37名

⑪ 主な施設設備計画の実施状況

【大学】（合計10件）

34号館機械工学科総合実験実習棟新築工事 （補助金対象事業経費／交付決定額264,200千円）	528,546千円
1号館屋上部ルーフトレン緊急工事	1,591千円
1号館屋上防水一部補修工事及び東側外壁塗装工事	5,951千円
2号館屋上RC手摺落下防止補強工事	3,532千円
機械工学科2研究室の実験装置等の移動に伴う改修工事及び 装置移設／No1	15,327千円
機械工学科2研究室の実験装置等の移動に伴う改修工事及び 装置移設／No2	1,078千円
30号館空調工事（3年計画／1年目）	110,880千円
30号館受水槽新設加圧ポンプ交換工事	2,717千円
正門前舗装打換工事	1,903千円
正門修繕工事	1,870千円

◆機械工学科総合実験実習棟	
新棟変更追加工事(太陽光発電ソーラパネル導入)	39,214 千円
5、7、8号館から新棟へ移設作業	38,170 千円
各実験室・実習室等の備品購入	8,741 千円
2階学習室の講義机・椅子の購入	1,627 千円
内線電話工事	1,738 千円
防犯カメラ取付工事	1,750 千円
2階3室音響機器システム導入	4,063 千円
◆建物取り壊しに係わる調査	
5、7、8号館アスベスト含有の有無	2,345 千円
◆非構造部材点検調査	
大学・岡部校舎建物非構造部材改修場所特定	1,705 千円
◆学生食堂厨房機器の更新	
電気スチコンスーパーチーム(オーブソ)他交換購入	2,409 千円
◆液体窒素製造装置の導入	9,900 千円
【岡部校舎】	
卓球道場の練習場照明修繕工事	3,342 千円
【上柴校舎】	
上柴校舎解体工事	62,700 千円

⑫ キャリア支援センター・就職課 事業状況

学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は、8月～3月に「公務員・就職筆記試験対策講座」を対面とWebのハイブリット講義にて開講した。2月下旬～3月上旬には、直前対策講座を設け、受講者を対象に全国公開模擬試験（地方上級・大卒公安型）を実施した。
- (2) 1年生は、3年後の就職活動を見据え、進路希望登録（SAIKOナビ）の登録を実施した。また、これからの学生生活を充実して過ごしてもらうため、希望者には個別面談を実施した。2年生は、就職ガイダンス、Uターンを考える講座等を実施した。3年生は、4月よりオンライン配信で就職ガイダンスのほかに、様々な就職活動準備講座を実施した。（(3)以下参照）
- (3) 具体的には、自己分析講座、エントリーシート作成講座、業界研究講座、ビジネスマナー&面接基礎講座、合同企業説明会の参加の仕方講座など、多岐に渡る講座を実施した。さらに、少人数制講座として、「1day対面集団面接対策研修」、「Web集団面接講座」をそれぞれ複数回実施。また、履歴書用写真撮影を11・12月（年内）に実施し、早期化している就職活動に備えた。

- (4) 筆記試験対策としては、e-ラーニング (SAIKO ドリル) 形式、講師から解説を受ける講座 (「SPI 集中講座 (基礎編) (応用編)」) の二つを準備し、学生が好きな方を選択して学習できる環境を準備した。
- (5) 12 月に大手企業を集め「業界研究セミナー」を実施した。
- (6) 10 月に留学生ガイダンスを実施した。日本での就職活動や就労ビザについて、東京外国人雇用サービスセンターの担当者から説明して頂いた。

合同就職説明会及び個別就職説明会

- (1) 未内定者を対象に学内で 3 月～11 月に個別説明会を延べ 197 社実施した。
- (2) 2022 年 2 月に 2023 年 3 月卒を対象とした合同企業研究 WEB セミナーを実施した。当初は対面実施で計画していたが、コロナ感染再拡大により、WEB 開催に変更して実施。予定していた参加企業数を減らすことなく実施できた。参加企業数は 285 社 (予定は 288 社だったが、3 社は当日コロナの影響で不参加となった)、参加学生は延べ 9,125 名。

保護者向け就職ガイダンス

- (1) 2022 年 3 月卒の未内定学生のうち、4 月末時点で連絡がつかない学生 (46 名) の保護者を対象に、5 月 22 日 (土) に個別面談を実施。保護者の希望を伺い、WEB 面談、対面面談の両方で対応。

個別面談

- (1) 2021 年 10 月から就職課職員による 3 年生 WEB 面談を開始し、就職希望調査や就職活動準備のアドバイスを実施。
- (2) 2021 年度からは、週 5 日キャリアカウンセラーによる個別面談が受けられる体制を整えた。(カウンセラー 3 人で週 5 日を担当)

情報交換会及び加盟団体

- (1) 群馬県や栃木県、長野県、富山県、石川県などの WEB や対面就職情報交換会に出席し、各企業と情報交換を行い、U・I ターン就職を希望する学生に情報提供をした。
- (2) 関東地区大学理工系就職研究会では、年間 5 回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。7 月 7 日に工場見学会を実施。本学から推薦した「オプナス株式会社」(秩父市) の新工場を見学し、業界の知識を深めるとともに、企業担当者との情報交換を行った。
- (3) 埼玉就職問題協議会では、年間 2 回の協議会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。また、7 月 3 日には、埼玉県大学就職問題協議会加盟 16 大学主催のオンライン合同企業説明会も実施した。

地域交流

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、2月に就職課主体で実施したオンライン合同企業説明会に、坂城町企業を誘致。坂城町の企業6社が参加。

講義

- (1) キャリア支援科目の講義を前期に7コマ実施。全てハイフレックスで開講。3年生向け科目をのべ673名、2年生向け科目を52名、1年生向け科目を324名が履修。グループディスカッションの実践、履歴書・エントリーシートの書き方修得、短時間での文章執筆、論理的思考の基礎修得等、就職支援を目的とする講義を実施。

海外研修引率

- (1) 新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、海外への渡航を断念。学内に日本国内各大学に在籍するベトナム人留学生を招いて本学の学生と混合でのチームワーク研修を実施した。本学の学生を合計21名指導。
(日程：事前研修 8/18、本研修 9/02-07、事後研修 9/26)

交換留学協定

- (1) 新型コロナウイルスの影響で交換留学は断念。

高校部門

令和元年の12月、中国武漢市で新型コロナウイルスの初めて感染者が確認されてから早2年。令和3年度も新型コロナウイルス感染防止対策に追われた一年となりました。感染者数の増減は一進一退を繰り返し、学内でも陽性者が断続的に確認される状態が年間を通して続きました。その時々々の感染状況によって、学級閉鎖や休校などの対策をとり、オンライン授業なども活用しながら教育活動を続けてきました。そうした中で多くの学校行事が中止を余儀なくされ、生徒たちには大変残念な思いをさせてしまいました。

特に部活動においては、県からのガイドラインに基づき、細心の注意を払いながら活動を続けてきましたが、複数の陽性者が確認されて散発的に小規模のクラスターに至った状況もありました。幸いなことに重症化や重い後遺症が残るようなことはありませんでしたが、改めて変異株の感染力の強さと感染経路の特定の難しさを思い知らされました。

3回目のワクチン接種の拡大により、感染者の減少傾向が続いていますが、今後の感染状況については決して楽観視できるものではありません。しかしながら、手洗い、マスク着用、ソーシャルディスタンスなど当たり前の感染防止対策を徹底して継続していくことが最善の感染防止対策です。自粛疲れと言われるように心身の負担は続きますが、まだまだ終息までには時間がかかることが予想されています。引き続き十分な感染対策に努めながら、可能な限りの教育活動を継続していきたいと考えています。

■生徒募集結果

今年度からDX（デジタルへの変容）を図るべく、生徒募集活動における様々な取り組みを見直してきました。Webマーケティングの専門家をコンサルタントして招き、データに基づいた上で様々な新たな取り組みを行ってきました。その一環として、今年度は紙ベースの学校案内を廃止し、最低限の情報を掲載したリーフレットからホームページやSNSへ誘導することによって、これまで以上の量の最新情報を提供できるようになりました。その結果、ホームページのアクセスが増えただけでなく、オープンスクールや学校説明会などの申込者の増加にもつながり、最終的には受験生の確保につなげることができました。今後はさらにDXを進めながら効率のよい、効果的な生徒募集活動を行なっていきたいと思えます。

今年度は新型コロナウイルスのクラスター発生により、夏休みの予定していたオープンスクールを実施することができませんでした。その影響は決して小さくなく、本来取り込んでおくべき時期に受験生を取り込むことができませんでした。そのマイナス面を挽回すべく、少人数完全予約制の学校見学会を複数回設定し、一人でも多くの受験生に来校していただく機会を準備しました。その結果、マイナスの影響を最小限に食い止めることができました。その結果が以下の数字となります。

○令和4年度入学者数

系統	コース	男子	女子	入学者数	募集定員
特別進学系	S	9	9	18	30
	H	20	25	45	90
総合進学系	I	57	71	128	120
	P	142	53	195	120
合計		228	158	386	360

○令和4年度入学試験結果

受験形態	受験者数			合格者数			手続者数		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
単願	200	130	330	198	129	327	198	129	327
併願	495	509	1,004	483	507	990	30	29	59
合計	695	639	1,334	681	636	1,317	228	158	386

■学校行事

○キックオフセミナー

新型コロナウイルス感染拡大をふまえて、昨年度同様に新入生の研修行事を 4 月 14・15 日に校内で実施した。宗教研修（法話・献燈式）、グローバルビジョンセミナー・SDGs 研修・ICT 研修・チームビルディングといった、高校生活のスタートにあたって有意義な研修が実施できた。

○松川杯スポーツ大会

感染防止をはかるため、本校体育館およびビッグタートルを利用して学年・コースごとの分散開催とした（実施種目：バスケットボール・ドッジボール）。新型コロナウイルスの感染が拡大している中、新入生にとって最初のクラス企画であるスポーツ大会の開催にむけた関係各所の尽力に感謝している。



○増上寺研修（3年）

新型コロナウイルス感染拡大をふまえ、実施を見送った。

○公開授業・クラス懇談会

教室を変更し密集状態を防ぐなどの感染防止策を講じた上、予定通り 4/28 に実施した。実施にあたっては校長より次の 2 点が保護者へ伝えるべきこととして提示された。

- ・コロナウイルス感染防止に努めつつ（マスク着用等・空気清浄器の全室設置・健康管理アプリの導入など）、通常の教育活動を継続していきたい。
- ・授業力の向上をはかるため、外部の専門家を招き、授業診断を実施している。
引き続き iPad を活用しながら、学力の 3 要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を育む授業、生徒自らの思考力を高める授業の展開に取り組んでいく。

○土曜講座（SDGs・GCAT・英会話など）

土曜講座の一環として、昨年度から「SDGs」についての学習を続けている。

今年度最初の研修（5/22）は、1 年生がまず「SDGs とは何か？」を理解するところから始まった。昨年度より継続している 2 年生は SDGs を自分の課題としてとらえ、身近な課題の解決策をさぐることに取り組む。



○大学・専門学校オンラインガイダンス【5/31・6/3・4・9】

当初は5月31日に、埼玉グランドホテル深谷を会場として開催することを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、オンラインによる実施に変更した。

○土曜講座（SDGs・GCAT・英会話など）

7/3、第2回GCAT研修として、1年生を対象に「働くこと・今やるべきこと」について考えるキャリア講演会を開催した。2年生は国内コースに変更となった、新たな研修旅行先に関する説明会に参加した。

○7/9 歌舞伎鑑賞教室（3年）及び芸術鑑賞会（1・2年）

新型コロナウイルスの感染拡大がとまらない状況をふまえて、歌舞伎鑑賞教室（東京・国立劇場）は中止とし、代替行事として熊谷シネティアラ21における映画鑑賞を実施した。深谷市民文化会館における芸術鑑賞会（「スターライツ」ゴスペルコンサート）は予定通り実施した。アカペラの校歌演奏には生徒からの大きな拍手・喚声が寄せられた。



○昨年度修学旅行の中止にともなう3年生代替行事（富士急ハイランド・日光・軽井沢）

○精霊会（法然忌・成道会についても同様の形態にて実施した）

新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、全校生徒が体育館に集まることは避け、本校にゆかりある故人に思いを寄せながら、教室での写経に臨んだ。

○令和3年度全国高等学校総合体育会（北信越インターハイ・無観客開催）

昨年度、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となったインターハイが、今年度は北信越の4県（福井・石川・新潟・長野）を舞台に原則無観客として開催された。

本校からは4つのクラブ－男子バスケットボール部（2回戦進出）・男子サッカー部・山岳部・女子卓球部（ダブルスベスト8）が出場した。

○葵祭・体育祭・大学見学会（2年生）

新型コロナウイルス感染拡大（第5波）による休校措置（特別指導期間として授業映像を配信）のため、9月に予定していた諸行事はいずれも中止となる。

○土曜講座（SDGs・GCAT・英会話など）【10/16】

2年生の研修旅行に向けた事前学習がコースごとに開催され、いよいよ本格化してきた。

○企業訪問プログラム（1年生）

新型コロナウイルス感染拡大が終息しない中、今年度の実施は見送った。

○実用英語技能検定・日本漢字能力検定

今年度、放課後の進学講習を英語検定対応に転換するとともに英語科による2次対策面談の充実を図るなど検定対策を進めてきた。昨年12月末までの合格実績は次の通りである。

英語検定合格者数 準1級2名（1） 2級16名（10） 準2級51名（52）

漢字検定合格者数 2級6名（5） 準2級32名（10）

※（ ）内は前年同期の合格者数

○授業診断

1月下旬、本校教職員が6教科（国語・数学・理科・地歴公民・英語・体育）10名の授業を参観するとともに、外部から招いた講師による授業内容・生徒把握・ICTの活用など多方面からの授業分析、診断を実施した。昨年度に続いて2回目となる授業診断を通じて、当該教員のみならず、教員全体の授業改善に向けた取り組みが進むことが期待されている。

○正智公演会

新型コロナウイルス感染拡大（第6波）にともなう「蔓延防止等重点措置」が発令される中、開催が危ぶまれていたが、吹奏楽部による演奏会は無事2/13、成功裡に開催された。

○研修旅行（2年生）ならびに深谷アンバサダープロジェクト（1年生）

研修旅行は中止を余儀なくされたが、これまでの学習の成果を冊子にまとめる企画に取り組んだ。予定通りに実施した深谷アンバサダープロジェクトは、1年生の充実した発表が外部よりお招きした審査員からも高い評価を得た。

■生徒会活動

既に述べたように、コロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの行事が中止される状況下でありながら、分散開催という変則的ではあったものの松川杯スポーツ大会を開催できたことは特筆に値する。「千紫万紅－ひとりひとりが輝く時」の統一テーマのもと、9月の開催予定であった葵祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、映像配信授業による「特別指導期間」として実質的な休校措置が取られたため、開催中止とせざるを得なかった。

■卒業生の進路について

今年度は3年生特別進学系クラスの在籍数が少なく、一般選抜の受験者数が昨年度と比較し、10%以上減少し8.2%になりました。近年、特別進学系Hコースの一般選抜割合が減少傾向となっていました。今年度は42.1%（昨年度は55.9%）になり、Hコースの半数以上の生徒が指定校や公募推薦で進学する状況になりました。指定校推薦での進学者割合は前年度の51.3%から今年度は58.6%に上昇し、確実に進学先を決めたいという生徒の割合が増加しました。総合型選抜での受験者が前年度の12.2%から16.8%に増加しましたが、部活動の実績が必要な総合型選抜受験が増えたことによる増加であると分析しています。進路先は専門学校進学者がやや減少傾向ですが、おおむね前年と変化がなく、就職者は昨年度と同様少ない傾向が続いています。経済的な事情からか本校以外では大学進学者が減少し、専門学校進学者が増加傾向で11月に募集を締め切る専門学校が例年より多い状況でありましたが、本校では専門学校進学者が増加することはありませんでした。

○卒業生進路状況

	H29	H30	R1	R2	R3
卒業生数	314	446	456	422	316
四年制大学	78.0%	71.5%	74.6%	78.4%	81.6%
短期大学	1.9%	1.8%	3.5%	1.4%	0.9%
専門学校	11.5%	13.2%	15.4%	13.3%	13.3%
就職	5.7%	6.7%	3.3%	2.4%	2.5%
進学準備	2.9%	6.7%	3.3%	4.5%	1.6%

○4年制大学

	H29	H30	R1	R2	R3
国公立大学	14	20	26	26	17
私立大学	311	433	514	515	328
合計	325	453	540	541	345

○国公立大学合格者 17名

埼玉	5(2)	茨城	1	前橋工科	1	長岡造形	1
群馬	1(1)	静岡	1	埼玉県立	2	下関市立	1
宇都宮	1	岩手	1	高崎経済	1	水産大学校	1

○私立大学合格者 515 (48) 名 ※ () 内は既卒生

埼玉工業	11	慶応	2(2)	青山学院	1	中央	3
法政	12(1)	立命館	3(2)	成蹊	2	成城	1
明治学院	2	芝浦工業	3	武蔵	4(3)	獨協	15(2)
國學院	4	東京農業	2	日本	8(1)	東洋	31
駒澤	5	専修	1	文教	10(1)	東京電機	8
工学院	5	その他私大	328(21)				

中長期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

埼玉工業大学は、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、新たに将来計画に関わる中長期ビジョンを掲げ、来る令和9(2027)年を見据えたビジョンを策定し、2021年度に「将来計画 SAIKO中長期ビジョン2021-2027」の冊子が完成しました。(ホームページでも公開)

平成22(2010)年以降、幸いなことに大学の入学定員を継続的に満たしてきているが、離籍率の減少や就職率の増加についても真摯に取り組んでいかねばならないと考えています。そこで次の目標を定め、達成するための戦略として、入学戦略、教育改革戦略、学生支援戦略、キャリア・就職支援戦略、地域連携戦略、研究活動活性化戦略、管理運営体制強化戦略の7項目を掲げ、その具体的な取組みを実施しております。

- ・入学定員の確保100%+α
- ・離籍率(1年間)3%以下
- ・就職率95%以上
- ・大学院進学率10%以上
- ・健全な財務の実現
- ・新時代を担う技術の開発と社会への還元

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

令和3年度資金収支の状況は、学校法人における収入の基本となる入学者については、埼玉工業大学、正智深谷高等学校とも入学定員を確保することができた。

大学部門においては、収容定員も維持し安定した学生生徒納付金収入を得ることができている。機械実習工場の新築工事に伴い国の補助金を得たことと金融機関より借入を実施したことにより、補助金収入、借入金等収入が増加した。

支出では、前年度実施した新型コロナ対応の支出の減少し、機械実習工場の建設や旧埼玉工業大学専門学校の校舎の取壊し費用のため支出が増加した。

高校部門においては学生数が対前年度で減少したが、学生生徒納付金収入、補助金収入とも前年度なみの収入となった。

学生募集の状況は、大学部門は入学定員が確保でき、収容定員も維持できるため、今後も安定した収入を見込むことができる。

①貸借対照表関係

今年度の資産負債の状況は、総資産で551百万円の増加、総負債は522百万円の増加となり、純資産で29百万円の増加となった。

固定資産は、有形固定資産で投資額1,144百万円(現物寄付を含む)に対し、減価償却・除却等で845百万円の実績で298百万円の増加特定資産、その他の固定資産の増減と併せて、固定資産合計では15,963百万円の残高となる。流動資産は2,842百万円から3,117百万円に増加、未収入金が増加したことが要因となっている。

負債勘定は、固定負債では新規借入金ため長期借入金が359百万円増加し、また、退職給与引当金も37百万円増加したことにより全体として396百万円増加した。流動負債も、新規借入金のため100百万円増加したことにより合計で125百万円増加し1,331百万円となり、負債合計は前年度より522百万円増加の2,870百万円となった。

基本金の第1号基本金は、大学部門、高校部門で合わせて対前年度比469百万円増加し、繰越収支差額は439百万円支出超過が増加し、10,118百万円となり翌年度へ繰り越すこととなった。

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

科 目	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
固 定 資 産	16,668,785,607	16,381,364,535	16,024,425,609	15,687,048,856	15,963,298,659
流 動 資 産	2,066,076,503	2,322,788,030	2,509,014,700	2,842,204,373	3,117,484,274
資 産 の 部 合 計	18,734,862,110	18,704,152,565	18,533,440,309	18,529,253,229	19,080,782,933
固 定 負 債	1,586,969,579	1,353,479,657	1,194,409,116	1,142,246,551	1,538,989,207
流 動 負 債	1,144,625,955	1,296,772,127	1,284,492,015	1,205,928,334	1,331,326,431
負 債 の 部 合 計	2,731,595,534	2,650,251,784	2,478,901,131	2,348,174,885	2,870,315,638
基 本 金	26,191,708,174	25,906,152,732	25,942,732,462	25,859,207,686	26,328,522,715
繰 越 収 支 差 額	-10,188,441,598	-9,852,251,951	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420
純 資 産 の 部 合 計	16,003,266,576	16,053,900,781	16,054,539,178	16,181,078,344	16,210,467,295
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	18,734,862,110	18,704,152,565	18,533,440,309	18,529,253,229	19,080,782,933

イ) 財務比率の経年比較

	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	
固定資産構成比率	固定資産/総資産	89.0%	87.6%	86.5%	84.7%	83.7%
流動資産構成比率	流動資産/総資産	11.0%	12.4%	13.5%	15.3%	16.3%
総負債比率	総負債/総資産	14.6%	14.2%	13.4%	12.7%	15.0%
前受金保有率	現金預金/前受金	266.8%	265.9%	294.0%	359.7%	366.7%
基本金比率	基本金/基本金要組入額	96.9%	97.5%	98.2%	98.7%	97.0%
減価償却比率	<small>減価償却累計額(図書を除く) /減価償却資産取得価額(図書を除く)</small>	50.5%	51.0%	52.0%	53.2%	52.7%

②資金収支計算関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
学生生徒納付金	3,426,480,550	3,427,286,880	3,551,969,820	3,635,715,280	3,638,694,620
手数料収入	75,346,497	84,964,480	104,958,131	86,888,423	81,208,219
寄付金収入	42,364,894	44,122,861	32,834,000	72,938,354	19,983,000
補助金収入	761,295,650	776,474,680	664,755,300	790,632,020	1,083,291,426
資産売却収入	0	10,000	0	4,748,550	780
付随事業・収益事業収入	38,684,717	48,619,868	29,815,158	38,983,985	30,160,893
受取利息・配当金収入	4,329,181	1,343,445	1,351,663	1,255,682	1,151,374
雑収入	102,753,783	81,648,700	173,174,185	79,463,452	98,223,729
借入金収入	0	0	0	0	600,000,000
前受金収入	727,055,000	831,754,250	772,932,500	743,685,000	714,185,000
その他の収入	713,226,416	100,581,302	162,089,291	194,889,259	324,184,343
資金収入調整勘定	-797,463,942	-799,144,291	-1,026,643,509	-871,689,713	-1,117,322,035
前年度繰越支払資金	1,888,576,994	1,939,612,755	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839
収入の部合計	6,982,649,740	6,537,274,930	6,679,229,351	7,050,102,705	8,148,629,188

支出の部	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
人件費支出	2,439,030,558	2,461,954,930	2,522,597,445	2,373,460,417	2,449,094,772
教育研究経費支出	1,016,771,608	1,044,245,306	1,081,405,395	1,257,884,513	1,163,431,636
管理経費支出	381,236,181	375,256,054	398,978,896	347,825,351	424,905,155
借入金等利息支出	10,037,325	7,234,305	4,456,383	3,534,268	4,861,889
借入金等返済支出	212,800,000	149,200,000	157,600,000	120,000,000	140,426,000
施設関係支出	184,919,278	168,227,426	125,519,440	119,731,071	1,026,994,798
設備関係支出	117,062,852	120,424,368	201,295,490	150,343,932	112,742,669
資産運用支出	512,341,477	6,695,518	7,345,588	6,335,638	205,241,504
その他の支出	514,817,306	350,572,611	369,656,304	494,049,932	581,238,343
資金支出調整勘定	-345,979,600	-358,528,400	-462,218,003	-497,930,256	-579,317,092
翌年度繰越支払資金	1,939,612,755	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514
支出の部合計	6,982,649,740	6,537,274,930	6,679,229,351	7,050,102,705	8,148,629,188

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入	4,435,176,091	4,442,010,469	4,544,976,594	4,702,961,514	4,683,467,887
教育活動資金支出	3,837,038,347	3,881,456,290	4,002,981,736	3,979,170,281	4,037,431,563
差引	598,137,744	560,554,179	541,994,858	723,791,233	646,036,324
調整勘定	-60,456,614	165,380,873	-87,386,340	48,628,719	-73,300,103
教育活動資金収支差額	537,681,130	725,935,052	454,608,518	772,419,952	572,736,221
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入	416,218,000	21,117,000	12,530,000	1,660,000	468,094,780
施設整備等活動資金支出	704,608,130	288,651,794	326,814,930	270,075,003	1,339,737,467
差引	-288,390,130	-267,534,794	-314,284,930	-268,415,003	-871,642,687
調整勘定	18,595,491	-36,248,640	6,834,503	24,094,686	-232,997,580
施設整備等活動資金収支差額	-269,794,639	-303,783,434	-307,450,427	-244,320,317	-1,104,640,267
小計	267,886,491	422,151,618	147,158,091	528,099,635	-531,904,046
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入	133,064,113	14,374,305	91,351,663	6,004,232	626,578,504
その他の活動資金支出	349,914,843	164,145,866	177,910,153	131,828,441	150,532,783
差引	-216,850,730	-149,771,561	-86,558,490	-125,824,209	476,045,721
調整勘定	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	-216,850,730	-149,771,561	-86,558,490	-125,824,209	476,045,721
支払資金の増減額	51,035,761	272,380,057	60,599,601	402,275,426	-55,858,325
前年度繰越支払資金	1,888,576,994	1,939,612,755	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839
翌年度支払資金	1,939,612,755	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514

③事業活動収支計算書関係

事業活動収入（以前の帰属収入）では、前年対比231百万円の増加で4,957百万円、事業活動支出は前年対比328百万円増加となり4,927百万円、基本金組入前当年度収支差額（以前の帰属収支差額）は127百万円の収入超過が29百万円の収入超過とプラスを維持した。

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

科 目	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
事業活動収入の部					
学生生徒納付金	3,426,480,550	3,427,286,880	3,551,969,820	3,635,715,280	3,638,694,620
手数料	75,346,497	84,964,480	104,958,131	86,888,423	81,208,219
寄付金	30,614,894	31,412,861	32,834,000	75,908,354	19,983,000
経常費等補助金	761,295,650	768,077,680	652,225,300	788,972,020	815,197,426
付随事業収入	38,684,717	48,619,868	29,815,158	38,983,985	30,160,893
雑収入	102,753,783	136,916,795	213,401,433	93,602,907	98,223,729
教育活動収入計	4,435,176,091	4,497,278,564	4,585,203,842	4,720,070,969	4,683,467,887
事業活動支出の部					
人件費	2,459,112,616	2,459,623,575	2,512,506,990	2,375,158,919	2,486,408,072
教育研究経費	1,585,843,582	1,597,482,755	1,633,764,139	1,819,482,692	1,710,223,726
管理経費	431,862,522	421,761,906	451,994,764	397,328,733	474,721,685
徴収不能額等	3,640,000	0	0	1,197,000	0
教育活動支出計	4,480,458,720	4,478,868,236	4,598,265,893	4,593,167,344	4,671,353,483
教育活動収支差額	-45,282,629	18,410,328	-13,062,051	126,903,625	12,114,404
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	4,329,181	1,343,445	1,351,663	1,255,682	1,151,374
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	4,329,181	1,343,445	1,351,663	1,255,682	1,151,374
事業活動支出の部					
借入金等利息	10,037,325	7,234,305	4,456,383	3,534,268	4,861,889
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	10,037,325	7,234,305	4,456,383	3,534,268	4,861,889
教育活動外収支差額	-5,708,144	-5,890,860	-3,104,720	-2,278,586	-3,710,515
経常収支差額	-50,990,773	12,519,468	-16,166,771	124,625,039	8,403,889
事業活動収入の部					
資産売却差額	0	10,000	0	0	780
その他の特別収入	22,032,918	38,376,516	22,902,468	4,673,402	272,452,153
特別収入計	22,032,918	38,386,516	22,902,468	4,673,402	272,452,933
事業活動支出の部					
資産処分差額	33,007,685	271,779	6,097,300	2,759,275	251,467,871
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	33,007,685	271,779	6,097,300	2,759,275	251,467,871
特別収支差額	-10,974,767	38,114,737	16,805,168	1,914,127	20,985,062
基本金組入前当年度収支差額	-61,965,540	50,634,205	638,397	126,539,166	29,388,951
基本組入額合計	-157,423,230	-86,770,165	-70,162,797	-45,867,727	-469,315,029
当年度収支差額	-219,388,770	-36,135,960	-69,524,400	80,671,439	-439,926,078
前年度繰越収支差額	-9,969,052,828	-10,188,441,598	-9,852,251,951	-9,888,193,284	-9,678,129,342
基本金取崩額	0	372,325,607	33,583,067	129,392,503	0
翌年度繰越収支差額	-10,188,441,598	-9,852,251,951	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420
(参考)					
事業活動収入計	4,461,538,190	4,537,008,525	4,609,457,973	4,726,000,053	4,957,072,194
事業活動支出計	4,523,503,730	4,486,374,320	4,608,819,576	4,599,460,887	4,927,683,243

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率	人件費/経常収入	55%	55%	55%	50%	53%
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	72%	72%	71%	65%	68%
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	36%	36%	36%	39%	37%
管理経費比率	管理経費/経常収入	10%	9%	10%	8%	10%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	-1%	1%	0%	3%	1%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	77%	76%	77%	77%	78%
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	-1%	0%	0%	3%	0%

(2) その他

①有価証券の状況

種類	当年度(令和4年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	200,382,000	199,980,000	△ 402,000
株式	508,800	937,680	428,880
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合計	200,890,800	200,917,680	26,880
時価のない有価証券	1,000,000		
有価証券合計	201,890,800		

②借入金の状況

借入先	期末残高	利率	返済期限
日本私立学校振興・共済事業団	37,680,000	1.6~2.0%	令和4年9月~ 令和6年3月
三井住友銀行	253,800,000	0.37%	令和9年4月
埼玉りそな銀行	503,549,000	0.35~0.88%	令和9年4月~ 令和11年3月

③学校債の状況

該当なし

④寄付金の状況

学生生徒・保護者、後援会、PTA、浄土宗	12,083,000
教育研究振興協力寄付金(企業)	7,900,000
合計	19,983,000

⑤補助金の状況

国庫補助金	教育関係	334,771,000
	施設整備関係	262,000,000
	合計	596,771,000
地方公共団体補助金	教育関係	480,426,426
	施設整備関係	6,117,000
	合計	486,543,426

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

役員・法人等の名称	資本金又は出資金	事業内容または職業	関係内容	取引の内容
松川 聖業	-	-	-	銀行等借入に対する根保証
緒方 延泰	-	弁護士	顧問弁護士	弁護士報酬

⑧学校法人間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人における大きな収入源である学生生徒納付金においては、近年の安定した学生募集により順調に推移している。学生の確保は学校法人において安定した収入を得るための最重要課題であるため、コロナ禍においても志願者から理解を得られる教育活動のあり方を模索・実施をしていきたい。しかし、収入の大部分を学生生徒納付金と補助金に依存している状況はまだ改善の余地がある。これからは、収入財源の多角化を目指し、学園が進めている教育研究をアピールし、受託研究・寄付金の獲得を進めたい。

今後の課題としては、機械実習棟の新築により施設の老朽化が一部改善したが、未だ施設の更新が進んでいないところもあり、将来を見据えた教育研究機関としての大学施設を再考し、そのための予算の計画を立てたい。今まで以上の業務全般について効率化を図り経費削減を行い、安定したキャッシュフローを獲得したい。